

教育実習は実習生にとってどのように意味づけられるのか？ —身体活動量の特徴に基づく教育実習日の学びと困難さに着目して—

野中陽一朗 (高知大学)

キーワード：教育実習，身体活動量，PAC 分析

問題と目的

教育実習は、教職志望学生の資質能力向上だけでなく、教師としてのキャリア選択にも資する。教育実習研究は、量的あるいは質的変数として測定した教育実習前後の教職に対する態度やイメージ、行動変容を時系列に基づき比較検討してきた(e.g., 米沢, 2007)。一方、教育実習での経験をブラックボックスと捉えず、教育実習を構成する実習班での居場所感、教職志望度や教師効力感に及ぼすこと(三島・林・森, 2011)、教職志望学生と非教職志望学生とは教育実習でのネガティブな経験に対する意味づけが異なること(坂本・三島・一柳, 2013)も実証されている。これらの知見は、教育実習における経験の捉え方や効果が実習中の活動内容や個々の実習生により異なる可能性を示す。そのため、教育実習での個々の実習生の経験に焦点を置いた検討は、教育実習を介した学習デザイン構築に寄与すると考えられる。

本研究では、教育実習の中でも特徴的な実習日における実習生の心理構造を検討する。すなわち、教育実習経験の検討対象を身体活動量に基づき特定の実習日に絞り、教育実習日誌を資源として回想させた際、当該日における学びや困難さは対象者にどのように構造化されるのかを PAC 分析により探索的に検討することが本研究の目的である。

方 法

対象者 教育学部附属小学校で教育実習を行い、身体活動量の計測、教育実習日誌複写の承諾、実習後の面接調査を実施した学生のうち 1 名(女性、小学校教諭志望の 3 年生)であった。なお、研究の実施にあたり、書面及び口頭で研究内容について十分な説明を行い、研究参加の同意を得た。

身体活動量 2019 年 9 月 2 日(月)から 27 日(金)までの土日を除き着用した Fitbit Inspire HR (Fitbit)により測定した。当該期間は教育実習期間となる。期間終了後、身体活動量を専用 Web サイト上へ同期分析し、歩数、推定移動距離、睡眠時間等の情報を抽出し、歩数上位 3 日(13, 20, 27 日)を教育実習身体活動負荷上位日と捉え、面接調査で用いた。

手続き 連想刺激として、「提示された教育実習日において、どのようなことを学ぶことができましたか。また、どのような大変さがありましたか。手元にある当該日の教育実習日誌を振り返りながら頭に浮かんできた言葉やイメージを順番に記述してくださ

い。」という文章を該当日の教育実習日誌とともに提示し、口頭指示も行った。指示後、頭に浮かばなくなるまで自由連想させ、各カードに記入させた結果、総計 37 種類が生成された。この後、対象者にとって重要と感じられる順位づけを実施し、対象者の負担に鑑み、上位 10 の連想反応項目に絞り項目間の類似度を評定させた。類似度評定の後でクラスター分析(Ward 法)を行い、その後の対象者による解釈方法は内藤(1997)を参考に面接調査を実施した。

結果と考察

対象者は、10 の連想反応項目に基づき 3 つのクラスターを見出した。各クラスターの構成項目と各項目の重要度やイメージ、解釈について、クラスター 1 は、「褒めるときは具体的に(9, +)」、「褒めるタイミングと頻度が掴めない(3, -)」といった 2 項目から構成され、「子どもを褒めること」と解釈された。クラスター 2 は、「子どもへの叱り方(4, +)」、「叱って嫌われることへの不安(10, -)」といった 2 項目から構成され、「子どもを叱ること」と解釈された。クラスター 3 は、「授業中の児童のつぶやきから授業を展開(5, +)」、「児童のつぶやきを見つける難しさ(7, ±)」、「常に学級を観察(2, ±)」、「学びの必要性を与える難しさ(8, -)」、「教師は児童同士のつなぎ(1, +)」、「児童の素の反応の取り上げ方(6, ±)」といった 6 項目から構成され、「授業に関すること」と解釈された。クラスター 1 と 2 の共通点は言葉による指導方略であり、相違点は言葉に内包される意味合いと児童からの評価にあると解釈された。クラスター 2 と 3 の共通点は児童の反応に対する対応であり、相違点は児童同士の結びつきや学びに導くことにあると解釈された。クラスター 1 と 3 の共通点は教師の児童へのかかわりであり、相違点は教師の役割にあると解釈された。全体としては、教師として児童の反応や個々の状況を踏まえ、授業を実施展開する上で必要となる方略を学び難しさを感じたのだと解釈された。

今後は、対象者の心理構造に寄与する教育実習日誌の内容をより加味した因果構造を捉えながら、対象者にとっての教育実習の意味づけや効果を他の実習生との比較を踏まえ複眼的に検証していく必要も考えられる。

付 記

JSPS 科研費 19K14318 の助成を受けた。